

山梨大学
UNIVERSITY OF YAMANASHI

FACULTY of LIFE
and ENVIRONMENTAL SCIENCES

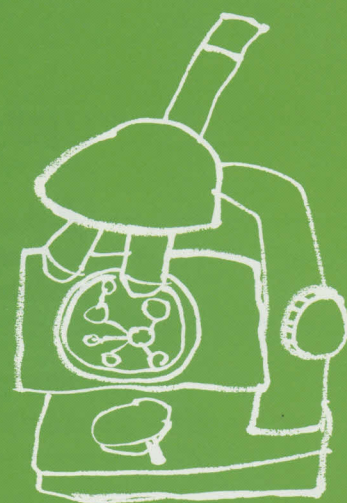
平成
28年度

生命環境学部案内



生命環境学部は
山梨大学の4番目の学部として
平成24年に誕生しました。

この新しい学部で、自然との共生可能な豊かな
地域社会の実現を目指して
いっしょに学び、いっしょに伝統を
作っていきましょう。



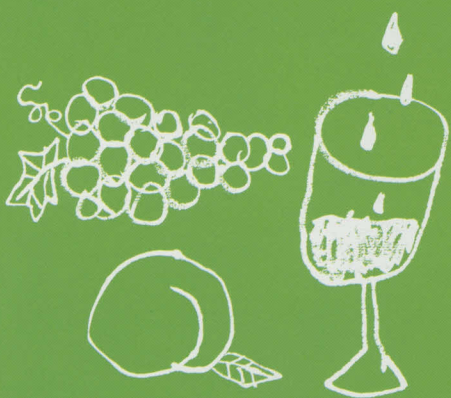
生命工学科

FACULTY OF LIFE AND ENVIRONMENTAL SCIENCES

～自然科学と社会科学を総合的に学べる先進的な学部～

自然との共生可能な豊かな地域社会を
実現できる人材を育成します。





地域食物科学科
ワイン科学特別コース



環境科学科



地域社会システム学科
観光政策科学特別コース

生命環境学部は「持続的な食料の生産と供給による地域社会の繁栄を実現するために必要となる生命科学、食物生産・加工、環境・エネルギー、地域経済・企業経営・行政に関し広い視野を持つ人材を自然と社会の共生科学に基づき養成する」ことを基本理念とし、4学科（生命工学科、地域食物科学科、環境科学科、地域社会システム学科）で構成される新しい学部です。自然と社会の共生科学の視点から、生命・食・環境・経営などの諸問題に取組み、解決する意欲をもつ人を求めています。

山梨大学
UNIVERSITY OF YAMANASHI

生命環境学部



CONTENTS

生命環境学部での学び — 2

生命工学科 (入学定員 35名) — 4

地域食物科学科 (入学定員 37名) — 6
(ワイン科学特別コース)

環境科学科 (入学定員 30名) — 8

地域社会システム学科 (入学定員 48名) — 10
(観光政策科学特別コース)

関連施設 — 12

大学院・キャンパスライフ — 13

その他情報 — 14



生命環境学部での学び!

生命環境学部では、「自然と社会の共生科学」を目指した
さまざまな学問分野の融合、基礎から応用までの一貫した教育、
実験・実習を重視した実践教育、大学院への連続性も考慮した教育を念頭に
工夫をこらした教育を行っています。

1^{年次}

全学共通教育科目
学部共通教育科目

2^{年次}

専門基礎科目

就職活動時・卒業後に、1人の人間として社会生活をスムーズに送ることができ、他人と協力し、かつ切磋琢磨しながら、よりよい人間関係が作り出せる人になるための基礎知識と技能および知恵を学びます。

大学院への連続性を重視した基礎教育と専門教育を行います。地域と連携したフィールドワークを始めとする実験・実習重視の実践的な教育を受けます。



3年次

専門発展科目



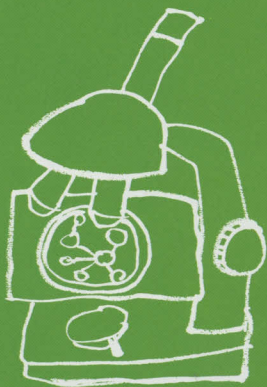
専門基礎科目を学んだ後、いよいよ生命・食・環境・経営に関する実践教育を受けます。また、広範で複合的な問題へチャレンジする意欲をもつ学生のために、他の学科の専門科目を履修できる相互乗り入れ科目を設定しており、柔軟性のあるカリキュラムを履修することによって幅広い知識を学びます。

4年次

専門特別科目



4年次では、主に専門特別科目を履修し、実践的専門職業人としての実技を修得する卒業研究を行います。また、特別講義などを履修し、大学院へ向けた専門知識についても学びます。



生命の仕組みを解き明かす 最先端バイオ技術を学ぶ!

最先端のバイオサイエンスを基盤に
高い創造力をもって未来のバイオ産業を
担うことのできる人材を養成します。

カリキュラムの構成 進路を見据えて学ぶ



生命工学科における学び

実験実習を重視した実践的教育体制

■生命工学の基礎知識・技術をしっかり学ぶ。

◎化学 ◎生物学 ◎微生物学 ◎化学や発生工学の実験技術



■バイオサイエンス、バイオテクノロジーを深く学ぶ。

◎遺伝子や細胞、生物機能に関する知識と技術 ◎食品や医薬品の生産に役立つ知識
◎食と健康、環境に関する知識と技術 ◎生物化学、培養工学、応用微生物学、遺伝子工学の実験技術



■有用物質生産、食品生産・加工、組織再生などの分野の技術者・研究者になる。

◎食品系製造業(食料、飲料、醸造等) ◎化学系製造業(医薬、化粧品、香料)
◎医療系産業(機器、分析など) ◎環境産業(廃水処理、環境分析) ◎農業関係法人(JAなど)
◎学術・研究機関 ◎地方公務員 ◎国家公務員 ◎高校教員(理科)など



Check Point !!

■生命工学科の前身は昭和32年設立の工学部発酵生産学科まで遡ることができます。バイオテクノロジーとバイオサイエンス分野において十分な教育・研究実績があり、すでに多くの卒業生を社会に送り出しています。前身学科の主な就職先は生命工学科ホームページ (<http://www.bt.yamanashi.ac.jp/>) をご覧ください。

■本学科につづく大学院に修士課程及び博士課程が設置されており、毎年卒業生の約7割は修士課程へ進学します。



生命工学科では、バイオインフォマティクス、ナノバイオテクノロジー、ゲノミクスを始めとする先端バイオを学ぶことにより、食品生産(植物バイオ・発酵食品・機能性食品)、健康増進(有用微生物・医薬品・酵素・化粧品)、再生医学(iPS細胞・ES細胞・クローン技術)、バイオエネルギー、環境保全などに関する新しい技術を創出する能力を身に付けることができます。

研究室紹介

生命工学科では4年次に研究室に所属し、学部の集大成として卒論研究に取組みます。
下記の教員が5つの分野(微生物利用工学、分子代謝工学、細胞培養工学、発生工学、合成生物分子工学)で先端的な研究を行っています。

微生物の潜在パワーを発掘する

★微生物利用工学分野

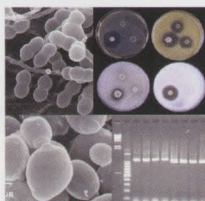
准教授／中村 和夫

きのこは親しみのある食材であるとともに抗腫瘍作用や抗酸化作用など生活習慣病の予防に役立つ物質を含んでいる微生物です。私達は新しいきのこの酵素機能を見つけ、その発酵能を用いた新規な食品(味噌やチーズ)を開発し、健康増進に役立つことを目標に研究を行っています。



准教授／山村 英樹 助教／中川 洋史

微生物は発酵食品や医薬品、廃棄物処理など様々な産業で人々の生活を支えています。私達は抗生物質などの生産菌として有名な放線菌の探索と活用、多様な食品産業に欠かせない酵母の機能開発を目指し、新規分離法の開発や遺伝子解析、さらにゲノムレベルの幅広い領域で研究を行っています。



再生医療の実用化を目指す

★細胞培養工学分野

教授／黒澤 尋 助教／大貫 喜嗣

培養工学の観点から、iPS細胞やES細胞などの多能性幹細胞を使った再生医療の実用化を目指しています。多能性幹細胞から効率よく目的細胞をつくり出すため、細胞の増やし方(増殖法)や心筋などの機能細胞に変化させる技術(分化誘導法)、さらには細胞の品質評価法の開発を行っています。

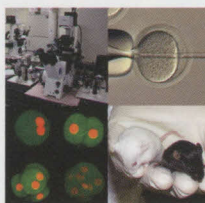


次世代に命をつなぐ新技術の創生

★発生工学分野

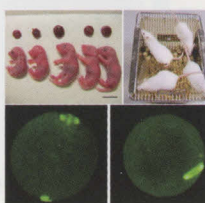
教授／若山 照彦 助教／水谷 英二

顕微授精技術は、実験動物や家畜だけでなく、人の不妊治療にも不可欠な技術です。また、体細胞クローン技術は再生医学や農業の未来を大きく変える可能性を秘めています。私達はこれら発生工学技術の開発・改良を通して哺乳類が個体に発生するしくみを理解し、より安全に利用する研究を行っています。



教授／岸上 哲士

胚の発生は、卵子の老化や培養環境、また「核の質」などの要因により大きな影響を受けます。また胚や胎児の環境が個体の遺伝子発現や性質にまで影響することも明らかになりつつあります。私達は、哺乳類の個体発生や個体の性質に影響を及ぼす胚の仕組みを明らかにする研究を行っています。

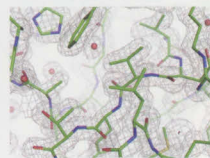


生物機能を分子レベルで解明する

★分子代謝工学分野

教授／楠木 正巳 准教授／大山 拓次

タンパク質は生物の主要成分の一つであり、酵素や物質輸送、シグナル伝達など、生物の多彩な機能を実現する魅力的な分子です。私達はタンパク質の複雑な立体構造をX線結晶構造解析法を使って決定し、生物の仕組みを理解する研究を行っています。



准教授／大槻 隆司

バイオの世紀と呼ばれる現在、人類が地球環境と共存して発展するにはバイオ技術が必要です。私達は生物の未知の能力を発掘し、その機能をタンパク質や遺伝子のレベルで解明し、バイオマス活用技術へ応用することで未来を豊かにする研究を行っています。



准教授／野田 悟子

自然環境中の多くの生物は微生物と共存しています。私達は宿主生物の代謝に重要な役割を担っている共生微生物について、シングルセル解析やゲノミクスなどの次世代技術を駆使し、機能や生態、進化を解明することを目指しています。



助教／小久保 晋

動植物と微生物とは共生関係にありますが、そこには様々な物質が影響しています。従って、その利用は病気治療や作物の増収に繋がります。この観点から新規抗酸化物質による治療や腐植物質を用いた新たな植物栽培法を研究しています。



バイオの世界をナノテクで操る

★合成生物分子工学分野

准教授／新森 英之

近年、生体の機能に習った科学はナノバイオテクノロジーという新分野へ発展しています。そこで我々は、生体機能を利用した新規な機能性材料・薬剤の開発を目指しています。具体的には、多彩な物質工場である生物をミクロな科学的視点で解き明かし、人に役立つ医薬品やバイオセンサー、バイオマシン、生体適合材料等の開発研究を行っています。



地域食物科学科 (入学定員 37名)

(ワイン科学特別コース)



人類の生存に欠くことのできない 食物について学ぶ!

地域性に富むワイン科学特別コースを学科内に設置。

カリキュラムの構成 進路を見据えて学ぶ

地域食物科学科・ワイン科学特別コースにおける学び

基礎から応用、そして実践に繋がる新しいカリキュラム

■食物の基礎知識・技術をしっかり学ぶ。

◎果樹、農作物の栽培 ◎微生物学 ◎食品製造学 ◎生物学 ◎栄養学

■食物科学を深く学ぶ。

◎農産物の生産 ◎食品製造の科学
◎食品微生物の分子生物学的解析と利用
◎食品成分の栄養学と有用成分の利用

■ワインの科学を深く学ぶ。

(ワイン科学特別コース)

◎ブドウ栽培、ワイン製造の技術
◎ワインの成分の分析と利用

■食物科学や農学の知識・技術を食料問題の解決に活かす人材になる。

◎食品産業、醸造産業 ◎製薬産業 ◎ワイン産業 ◎果樹栽培業
◎食品加工産業 ◎農業生産関連産業 ◎大学院 ◎高校教員



Check Point !!

■人類は有史以来、食品を作り続けてきました。かつてないスピードで進む環境破壊、そして人口増加、食物を取り巻く状況は大きく変化しています。地域食物科学科では、先端的な科学的手法を駆使した果樹や野菜の生産やワイン製造などの加工を実践し、食料問題の解決や食物の利用性と機能性を高める教育を行います。

■教育モデルとして「ワイン科学特別コース」を設置し、ブドウ栽培・ワイン製造を専門に研究する国内唯一の研究機関である「ワイン科学研究センター」の歴史と実績を活かして、専門的なワイン製造技術を教育しワイン製造業界で活躍できる人材を養成します。



地域食物科学科は、食物（食品製造、食品栄養、園芸）およびワイン製造に関する知識・技術（微生物、機能成分、果実遺伝子）を学べる新しい学科です。バイオテクノロジーを駆使した果樹や野菜等の農産物の栽培、食品製造の科学的理解、栄養・有用成分の解析と利用、ワイン製造技術等を課題に、食物生産から食品製造までのプロセスを包括的に学びます。

研究室紹介

地域食物科学科では、4年次に研究室に配属され、食物やワインに関する卒業論文研究に取り組みます。下記の6つの研究室があります。園芸学、食品製造学、食品栄養学、果実遺伝子工学、機能成分学、発酵微生物工学について研究を行います。

安心して食べられる野菜や果物の安定生産を目指して

★園芸学研究部門

教授／村松 昇 准教授／矢野 美紀

食は、私達に心身の健康と豊かな生活をもたらす大切な存在です。しかし、近年、食の安全を脅かす事件や、異常気象による農作物被害が多発し、多くの人が食に関する不安をつのらせています。当研究室では、安全な食物を安定的に供給するシステムの構築を目指し、情報通信技術の農業への利用を検討しているほか、植物工場の利用、これまで生産が少なかった果樹品目の栽培など、最新技術を用いた新たな農業に向けた研究に取り組んでいます。また、農業や化学肥料を使わず、土壌微生物の働きを高める野菜の栽培法の研究も行っています。



美味しいブドウをつくり、新しい栽培法を研究する

★果実遺伝子工学研究部門

准教授／山下 裕之 准教授／鈴木 俊二

果実遺伝子工学研究部門では、「美味しいブドウをつくる・手間をかけず栽培する」をキーワードに、基礎研究および応用研究を行っています。「美味しいブドウをつくる」ために私たちは分子育種と古典的な交雑育種を組み合わせ、香りに特徴をもち、着色性に優れ、高品質かつ病気に強い理想的なブドウの育成を目指しています。また、「手間をかけず栽培する」ためにはブドウの樹の形にこだわり、省力的、高品質安定生産が可能となる新整枝・せん定法を研究しその有利性を明らかにしています。さらにもともと自然界に生息する微生物を活用してブドウを病害虫などから守る農業の開発も行っています。



ワインの「おいしさ」を科学する

★機能成分学研究部門

教授／奥田 徹 准教授／久本 雅嗣 助教／斉藤 史恵

ワインの「おいしさ」は「色」「香り」「味」が三位一体となってつくりだされています。すなわち、「おいしい」ワインを造るためには、「色」「香り」「味」に関わる成分の化学構造や性質、生成する要因を科学的に解明することが重要です。私たちは、醸造中や熟成中に、どのような成分がどのようなメカニズムで抽出・生成されるのかを解析し、より優れた醸造技術への応用を目指しています。また、人がおいしさを感じるメカニズムについても注目しています。嗜好性や生体調節効果を持つ化合物を利用することで、より魅力のあるワインを造ることを目指し、研究に取り組んでいます。



食品製造を科学的に理解し、実践するフロンティア

★食品製造学研究部門

教授／谷本 守正 准教授／三木 健夫

食べ物のおいしさ、食べやすさに直結する、食品の食感や製造方法に関する研究をしています。様々な加工条件による食品の性質を、食品の物性と構造の両面から解析し、新たな食品価値を創造します。

また、酵母の遺伝子に関する研究を行っています。発酵食飲料製造に欠かせない「酵母」の性質は、遺伝子の相互作用によって生じています。遺伝子を構成するDNA配列を多面的に解析し、様々な情報を得ることにより「酵母」の持つ高次機能についての研究（高浸透耐性、アミノ酸資化性、細胞外タンパク質機能等）を行っています。



栄養素の健康維持に対する役割を研究し、地域に貢献する

★食品栄養学研究部門

准教授／望月 和樹 助教／山下さやか

私たちは、毎日食物から多くの栄養素を摂取して生きています。これらの栄養素には、エネルギー源となる栄養素（糖質、脂質、タンパク質など）、体を形作る栄養素（タンパク質、ミネラルなど）、代謝を助ける栄養素（ビタミン、ミネラルなど）などがあります。健康な生活を営むために、これらの栄養素の適正な摂取が必要となります。さらに、近年では、これらの栄養素に区分されない食事因子（食物繊維や、抗酸化食品成分なども私たちの体にとって大切な役割を担っていることがわかってきました。食品栄養学研究部門では、食生活と密接に関連している疾患（生活習慣病やアレルギー疾患）の予防を目標に、栄養素および食事因子の役割を探索することを目標に研究を行っています。



発酵を科学し、豊かな食生活に貢献する

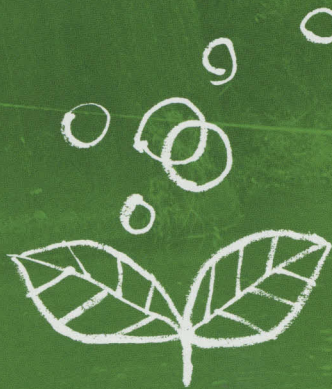
★発酵微生物工学研究部門

教授／柳田 藤寿 准教授／岸本 宗和 助教／乙黒 美彩・矢野 嵩典

ワインをはじめとする発酵食品の製造において、酵母や乳酸菌は様々な成分の生成を通して発酵食品の品質に大きな影響を与えています。我々はワイン醸造環境（ブドウ園、ワイナリー）や自然界（湖、花）から酵母や乳酸菌などの有用微生物を探索し、微生物の持つ未知の能力を解明することで、ワインや発酵乳飲料など個性豊かな発酵食品の開発を目指し研究を行っています。



環境科学科 (入学定員 30名)



自然環境と共生した 持続可能な社会を創る!

地球規模での環境問題に向き合い
持続可能な社会の形成に貢献する人材を養成します。

カリキュラムの構成

進路を見据えて学ぶ



環境科学科における学び

環境についての自然科学的な理解を基に、環境計測や環境管理のための知識と技術を総合的に学ぶ。

■環境科学の基礎知識・技術をしっかり学ぶ。

- ◎物理学 ◎化学 ◎生物学 ◎地球科学 ◎情報処理 ◎科学英語
- ◎自主ゼミ (=学生が自主運営する実験活動・勉強会 等)

■環境の調査技術を深く学ぶ。

- ◎大気、水、土壌のサンプルの採取と分析
- ◎生物、生態の観察と調査
- ◎水や物質の移動の計測 他

■環境の管理手法を深く学ぶ。

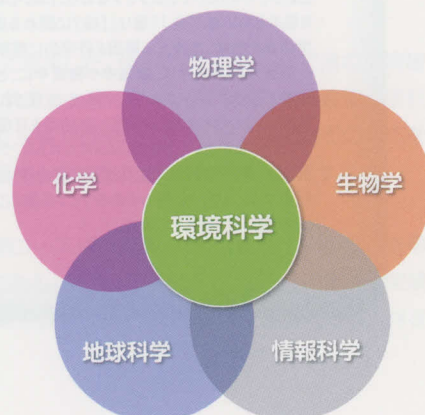
- ◎地理情報システムなどの環境情報解析
- ◎環境影響予測技術
- ◎污水处理などの環境保全技術 他

■環境負荷を減らし自然環境に貢献できる人材になる。

- ◎環境系コンサルタント企業(調査・予測・評価、計画・設計・管理) ◎企業の環境管理部署 ◎環境バイオ産業
- ◎国家公務員、地方公務員 ◎環境NGO、NPO ◎食品産業、製薬産業 ◎情報産業 ◎大学院 ◎高校教員 他

Check Point !!

■環境科学に関する幅広い視野と実践的な能力を養うために、学科の教育と研究指導を担当する教員グループは、環境に係わる物理学・化学・生物学・地球科学・情報科学に加え、水文学や水質学等に基づく環境管理や持続可能な環境技術の開発などの様々な分野のエキスパートにより構成されています。





環境科学科では、農作物を始めとする生物資源の持続的な生産を支える土壌、水、大気の保全や、生物生産の現場と周囲の生態系との調和を通して、自然環境と共生する持続可能な社会の創生に貢献する人材の養成を目的とした教育と研究指導を行います。

環境科学科の研究テーマ

物理学

化学

地球科学

生物学

情報科学

廃食用油からバイオディーゼル燃料を精製

竹内 智 教授

家庭や給食、食堂などで使用された廃食用油を軽油代替のバイオディーゼル燃料にリサイクルし、日常的に活用するための研究に取り組んでいます。



自然に学ぶ「カタチ」の科学技術

島 弘幸 准教授

動植物が示す造形美に注目し、その「形」が引き起こす生態機能を「物理学」の視点から解析することで、環境調和型の新しい科学技術を展開します。



生物と環境の関係を多面的に捉えよう

御園生 拓 教授

生物と影響の双方向の関係について基礎から応用までの多面的な研究を行っています。

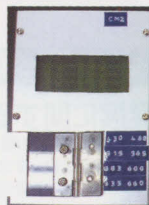
- ◎藻類と紫外線
- ◎藻類による廃棄物処理
- ◎人の心理と環境 他



簡易な分析法及び分析装置の開発

鈴木 保任 准教授

川の水などの環境試料、セメントなどの工業材料に含まれている成分を分析できる、小型の装置を開発し、分析に掛かる時間や費用の低減を目指しています。



大気中の微量化学成分の動態と環境への影響

松本 潔 准教授

微量化学成分の大気環境中での動態についてフィールドでの観測に基づく研究を行い、これらの成分が気象や気候、生態系に与える影響の解明を目指しています。



流域生態系における食物網の構造と動態

岩田 智也 准教授

陸-河川-海洋間の物質フローの経路とダイナミクスを調べることで、流域における生物群集の維持機構を明らかにしてゆきます。



水中の化学物質の調査と安全な水利用

風間 ふたば 教授

水中の化学物質の調査、都市の河川水質予測、途上国における簡易水質浄化方法などについて研究を行っています。環境教育にも長年取り組んでいます。



大気や海洋を対象としたリモートセンシング

小林 拓 准教授

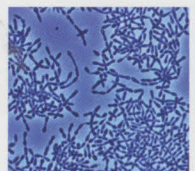
海の汚れや気候に影響を与える空に舞う微粒子の量や性質を、宇宙から調べる(リモートセンシングといいます)ための基礎的な研究を行っています。



微生物のチカラで環境を守る!

田中 靖浩 助教

洗剤や農薬などの汚染物質を分解できる微生物をいろいろな環境試料から探し出し、「環境を守る新しい技術」の開発につなげるための研究を行っています。



流域の健康影響評価

西田 継 准教授

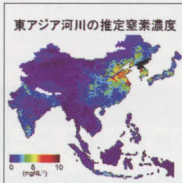
森林、農地、都市を流れる栄養元素の量、病原体による地下水汚染のしくみ、水利用と病気の関係などについて、山梨や東南アジアの流域で調査と研究を行っています。



物質循環から見た農業が環境へ与える影響

新藤 純子 教授

食料生産変化の解析や将来の需給予測に基づいて、農業が水質汚染や地球温暖化など環境に与える影響や対策の効果を広域的に推定しています。



土壌微生物の生態と有効利用に関する研究

片岡 良太 助教

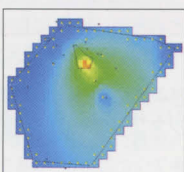
土壌微生物の機能を利用して環境を制御することを目標に研究を行っています。室内実験と野外での調査・研究を互いにフィードバックさせながら自然の実態に肉薄したいと考えています。



地下水と汚染物質の動きの物理化学的解析

坂本 康 教授

雨による地表の物質の地下浸透や、地下水の流れに伴う汚染物質の拡散など、地下水の動きと水質との関係を明らかにするための研究を行っています。



衛星観測・数値モデルによる河川流量推定

石平 博 准教授

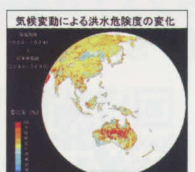
数値モデルや衛星観測技術を用いて、世界の様々な地域における河川流量を推定・予測する方法の開発に取り組んでいます。



流域～全球スケールの水循環

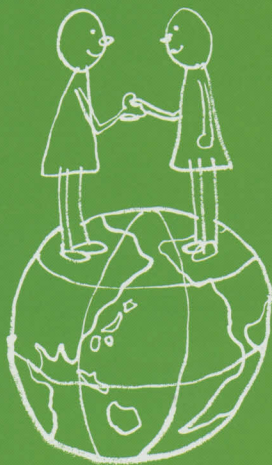
馬籠 純 助教

衛星・地理情報と数値モデルを駆使して、水循環と社会の関係性について、流域スケールと全球スケールの2つの視点から研究を行っています。



地域社会システム学科 (入学定員 48名)

(観光政策科学特別コース)



マネジメント・プロフェッショナルになる!

文理融合の生命環境学部の中にある「オンリーワン」の文系学科。
経済、経営、法律、政治、政策、地域計画、数理分析について深く学び
地域を「マネジメント」する能力を身につけ、
自然と社会の共生に基づく「持続可能な発展」に貢献する人材を目指します。

カリキュラムの構成 進路を見据えて学ぶ

地域社会システム学科・観光政策科学特別コースにおける学び

社会科学の総合的な知識と数理分析スキルを身につける

■地域社会システムの様々な構成要素と地域発展に関する基礎知識をしっかりと学ぶ。

- ◎経済学、経営学、法学、行政学、政治学など社会科学の基礎科目
- ◎統計学、基礎数学など、計量的分析方法の基礎科目
- ◎共生科学、生命科学、生物資源、環境科学など、自然との共生に関する科目

■経済学、経営学を深く学ぶ。

- ◎経済学の理論と経済現象の分析方法
- ◎経営学の理論と企業経営の分析方法

■法学、政治学を深く学ぶ。

- ◎基本的な法律知識と法学的な分析方法
- ◎政治学や行政学の理論と政策過程の分析方法

■地域計画、数理分析スキルを深く学ぶ。

- ◎地域計画の理論、方法、関連計画や政策
- ◎統計学や経済数学など、計量的な分析方法と管理方法

■観光経営・観光政策を学ぶ。

- ◎観光経営・観光行政・観光政策の理論と手法
- ◎観光資源を活かした地域づくりなど

■民間企業や行政機関などで地域社会をマネジメントできる人材になる。

- ◎国家公務員 ◎地方公務員 ◎一般企業（製造業、金融業、サービス業、観光産業、ITなど）
- ◎シンクタンク ◎起業者 ◎NGO・NPO ◎高校教員 ◎大学院進学など

地域社会システム学科 mobile site



Check Point !!

■地域社会システム学科で、学生は、地域社会のマネジメントに関する専門知識やスキルを体系的に修得するとともに、地域に対する知識とグローバルな知識を両立させながら、幅広い視野から社会を「マネジメント」する能力を身につけます。

■また、観光政策科学特別コースに所属する学生は、地域社会システム学科の専門科目に加え、観光経営・ビジネス分野および観光行政・計画分野の専門知識を習得できます。

■卒業後の進路として、民間企業・官公庁・地方自治体・公益法人・各種団体・大学院進学など、幅広いものが期待できます。



地域社会システム学科は、生命・食・環境の基礎を理解し、経済、経営、政治、行政、法律、数理などの専門知識を学び、人類が直面している食料問題や環境問題を社会・経済・行政システムとの関わりにおいて理解し、その諸問題に立ち向かい、地域社会の繁栄の実現に貢献できる人材を養成します。

履修可能な科目群



【経済】社会科学入門、財政学

門野 圭司／准教授

政府の経済活動を研究対象とする財政学の学習を通じて、経済的に不遇な人たちの言い分にこそ共感できる心と、経済の実態を科学的に理解する頭脳と、両方を身につけることの大切さを掴み取ってもらえればと思います。

【経済】マクロ経済学、食料問題とグローバル経済

渡邊 幹彦／教授

マクロ経済学では、国全体が豊かであり続けるための経済政策について学びます。食料問題とグローバル経済では、この経済政策をグローバル社会の進展にどのように対応させるのが良いかについて学びます。

【経済】公共経済学

渡邊 靖仁／教授

ミクロ経済学の理論を用い、市場の失敗・政府の失敗の発生理由と対策を分析し、効率と公平・貢献原則と平等原則などのトレードオフ関係について認識を深め、経済社会を公・共・私の3視点から把握する力を涵養します。

【経営】国際経営論、経営戦略論

竹之内 玲子／准教授

国際経営論では多国籍企業の戦略や組織マネジメントを学んでいきます。日本に進出している外資系企業や、海外に進出している日本企業の事例なども取り上げ、多角的に分析していきます。

【経営】経営学概論

西久保 浩二／教授

経営学を実践的な視点から幅広く学ぶことを通じて、企業経営を科学的に分析・評価し、そして改革できる力を身につけます。また、日本企業が持続的な競争優位に立ち、生存、成長する戦略を学びます。

【法律】日本国憲法、統治機構論

石塚 迅／准教授

法学分野の科目の中で、主に憲法に関連する科目を担当しています。私たちが享有する人権にはどのようなものがあり、それを保障するための統治のシステムはどのようなものであるべきかについて考えます。

経済

経営

法律

政治

政策

計画

数理

観光

【法律】民法I・Ⅲ、企業法

稲田 和也／教授

社会生活上しばしば接することとなる民法（不動産法と家族法）、商法（商行為法）を中心に講義を行っています。主として知識の習得になりますが、民事法学における思考方法も適宜紹介したいと考えています。

【法律】労働法、生活トラブルと法

大山 盛義／教授

私たちの生活に密接にかかわる法律（私法領域）の基礎を学びます。また他の法律科目と一緒に学ぶことで基礎知識の幅を拡げ、専門ゼミで応用力を身につけることができます。

【政治】政治学概論、環境政治論

金 基成／准教授

政治思想・政治体制・政治システム・民主主義・社会運動・市民参加など、政治学の基礎知識と考え方を習得するとともに、生態学的に持続可能な社会のあり方と政治過程上の諸課題について討論します。

【政治】国際関係論I、国際関係論II

小松 志朗／准教授

国際関係論を基礎から学んで、世界の構造や歴史、具体的な諸問題について理解を深めます。地域社会のことを考える時にも、グローバルな視点から世界とのつながりを意識できるようになってもらえればと思います。

【政治】行政学、地方自治論

藤原 真史／准教授

政治学の一分野である行政学、地方自治論では、国や地方自治体のさまざまな活動を支える行政資源（ヒト、モノ、カネ、情報等）やそれらを活用して産み出される政策について、理論や歴史、現状、課題等を学びます。

【政策】環境経済政策論

喜多川 進／准教授

日本のみならず海外の具体的な環境政策の事例を通して、環境政策の推進・阻害要因および環境問題解決のための望ましい政策のあり方を学びます。

【政策】科学技術政策論、リスクマネジメント概論

高橋 智子／准教授

社会のなかで科学技術をどうコントロールするのか、歴史を踏まえて未来のあり方を考えます。その上で科学技術政策とは何か、その方法論の一つでもある科学技術のリスクマネジメントとは何かを具体的に学びます。

【計画】地域計画学、地域共生デザイン

大山 勲／教授

都市や農村地域の計画、景観・環境・観光などの個別計画、商業・交通・集落空間などのデザイン、法定計画の限界、市民行政協働まちづくりの実践など、地域の持続と活性化を進めるための計画づくりの基礎を学びます。

【計画】エネルギーマネジメント、数理計画法

島崎 洋一／准教授

地域社会における望ましいエネルギーの使い方について学習します。行政や企業におけるエネルギーの導入計画、経営管理を主題とします。身近な例として、家庭の電力測定演習を行います。意思決定の手法を理解します。

【計画】経済地理学

宮川 雅至／助教

地域の社会経済現象を場所・空間に着目して客観的に分析し、問題解決につなげるための立地モデルを学びます。土地利用、施設配置、商業立地などを対象に、モデルを実際の地域に適用することを目指します。

【数理】経済・経営数学、社会数理システム

伊藤 一帆／准教授

世の中で起きている現象を数式を用いて表現することを数理モデリングといいます。そして、その数式を分析することにより、複雑な現実の本質が見えてきます。経済現象を中心に、この一連のプロセスを修得しましょう。

【数理】基礎統計学、基礎統計学演習

平井 寛／准教授

あなたが仕事やその他の場で何か新しい提案をしようとするとき、その提案に説得力を持たせるにはどうしたら良いでしょうか。統計学は実際に起きた結果のデータに基づいた根拠を示すことができる有力なツールです。

【観光】観光政策論、観光地域計画論

菊地 淑人／准教授

観光政策・計画という観点から、観光資源を活かした地域づくりを学びます。また、世界遺産をはじめとした文化・自然遺産の価値評価やマネジメントを学ぶことで、地域資源を守り、観光等に活かす方策を身につけます。

【観光】観光学入門、観光経営論

田中 敦／教授

訪日観光客の急増など変化が著しい観光について、地域とグローバルの双方の視点から幅広いテーマを取り扱います。また観光経営等の学修を通じて、マーケティングや企業経営の基礎知識を実践的に習得していきます。

関連施設

学部附属施設



附属農場

甲府市農業センター小曲試験圃場の一部を借用して作られた総面積約2.5haの農場です。山梨県の特産果樹であるブドウや桃、地域特性に適した農作物の作付けを行い、教育・研究に利用します。また、全学科の学生がこの農場で「生物資源実習」を受講します。設備として、管理棟（575㎡）、ガラス温室（480㎡）、堆肥舎、人工気象室、プレハブ倉庫などがあります。

学部教育に協力する研究センター

山梨大学にはいくつかの研究センターがありますが、そのうち発生工学研究センター・ワイン科学研究センター・国際流域環境研究センターの教員が生命環境学部の教育に参加します。これにより、最先端の研究の成果が教育の中に取り入れられます。



発生工学研究センター

実験動物飼育室、マイクロマニピュレーション室、分子生物学実験室、細胞培養実験室、細胞イメージング室等からなる研究施設です。平成24年の6月に新しくできた施設です（2階建て800㎡）。この施設では、遺伝子（DNA）、タンパク質、細胞、動物個体の各レベルにおいて質の高い実践的な教育研究を行うことができます。

1階
動物実験（マウス）
マイクロマニピュレーション

2階
細胞培養実験
細胞イメージング
分子生物学実験



ワイン科学研究センター

国立大学唯一のワイン科学を専門に研究するセンターです。60年以上の歴史があり、日本のワイン科学の教育と研究の拠点になっています。地域食物科学科の「ワイン科学特別コース」では、ワイン造りに情熱を抱き、ワイン業界をリードできる高度な専門知識と技術を持つ人材を育てます。



国際流域環境研究センター

国内外の水問題、つまり水資源の枯渇、水災害、水環境の悪化、水に起因する病気などに対応するための研究を行っているセンターです。環境科学科で、水資源・水環境の計測・管理などの教育を担当します。

『食と健康』『生命と環境』に関わる文理融合型の教育と研究

- 生命環境学専攻は「生命・食・環境・経営」に関する教育研究を目的とし、平成28年4月に新設されました。自然科学と社会科学の文理融合的アプローチで、人類にとって最も普遍的で重要な「食と健康」および「生命と環境」に関わる諸問題の解決に貢献できるエキスパートを育成します。本専攻では以下のコースを用意しています。

- ・バイオサイエンスコース 生命科学を基盤とした「食と健康」、「生命と環境」に関する教育研究
- ・食物・ワイン科学コース ワインをモデルとしながら科学的に探求し、食品産業を原料生産、加工・販売、安全から経営まで多面的に見渡せる教育研究
- ・地域環境マネジメントコース 環境・エネルギー、地域経済・企業経営・行政に関する教育研究

- 「食と健康」および「生命と環境」に関わる課題を、社会・経済・行政システムとの関わりでとらえ、自然科学の知識で理解・分析し、技術革新や政策によって解決する意欲をもつ人を求めます。

学 部	
生命環境学部	生命工学科
	地域食物学科(ワイン科学特別コース)
	環境科学科
	地域社会システム学科(観光政策科学特別コース)



大学院	
生命環境学専攻	バイオサイエンスコース
	食物・ワイン科学コース
	地域環境マネジメントコース



キャンパスライフ

講義!



実習!



実験!



発表!



討論!



勉学サポート

- 各学科では、学年ごとにクラス担当が決められていて、学び方・生活などのアドバイスをを行っています。
- 大学での学び方についての授業科目(生命環境基礎ゼミなど)があります。
- 数学・理科などの科目では、高校での勉強の復習から始まる基礎教育を行います。
- グループ学習・自習ができ、数学および物理などの個別指導を受けられる学習支援室があります。

その他のサポート

- 広報活動などを通じて、保護者・出身高校とのつながりを大事にしています。保護者の方には、毎学期成績表をお送りしています。
- キャリアセンターでは、就職関係の資料を整備するとともに、企業説明会、就職活動に役立つ各種セミナーやガイダンスを開催し、就職活動のお手伝いをしています。
- キャンパス全域に高速無線LAN設備があり、インターネットが自由に使えます。



その他の情報

平成28年度
出身高校所在県別
入学者数
総合計151人



平成28年度 個別学力検査等志願状況

()内は平成27年度の数字

募集区分【前期日程】		募集人員	志願者数	志願倍率
生命環境学部	生命工学科	30	81(95)	2.7(3.2)
	地域食物科学科	32	118(81)	3.7(3.2)
	ワイン科学特別コース	13	52(28)	
	環境科学科	25	124(102)	5.0(4.1)
	地域社会システム学科	43	169(81)	3.9(3.2)
	観光政策科学特別コース	13	74(-)	
合 計		130	492(351)	3.8(3.2)

募集区分【後期日程】		募集人員	志願者数	志願倍率
生命環境学部	生命工学科	5	76(20)	15.2(4.0)
	地域食物科学科	5	65(28)	13.0(5.6)
	ワイン科学特別コース			
	環境科学科	5	60(27)	12.0(5.4)
	地域社会システム学科	5	73(41)	14.6(8.2)
	観光政策科学特別コース			
合 計		20	274(116)	13.7(5.8)

※ワイン科学特別コースの人数(募集人員数と志願者数)は、それぞれ地域食物科学科前期日程の人数に、内数として含まれています。
※観光政策科学特別コースの人数(募集人員数と志願者数)は、それぞれ地域社会システム学科前期日程の人数に、内数として含まれています。

平成27年度 就職・進路情報

	卒業者	進 学	就 職	他	主な就職先
生命工学科	35	25	10	-	アスフィール、JR東日本、秀英予備校、岡野薬品、浅田レディースクリニック、キュービー醸造、スタークス、貫川整形外科医院、山梨中央銀行、エムティーアイ
地域食物科学科	35	18	17	-	アイキューブ、アマノ、大三島みんなのワイナリー、小倉ホールディングス、岳南排水路管理組合、JAおおいがわ、JA尾張中央、JA信州うえだ、JR東日本、スターバックスコーヒージャパン、大和、トーエル、日本クッカー、NOSAI愛知、BAKE 他
環境科学科	30	10	19	1	笛吹市消防本部、浜松医科大学、三島市役所、大阪府警察、KOA、ティージー情報ネットワーク、東京計装、八千代エンジニアリング、東洋計器 他
地域社会システム学科	36	2	33	1	山梨県庁、甲府市役所、警視庁、松本市役所、射水市役所、東京ガス、京セラコミュニケーションシステム、日本郵便、山梨中央銀行、山梨信用組合、山梨放送 他

新宿から甲府まで電車で最速83分。意外と近いんです!!

静岡駅から131分。富士駅から104分。岡谷駅から55分。



9:00授業開始!!

住居費をかけず東京から通学できます。

【特急】八王子07:29発→甲府08:28着

【普通】八王子06:57発→高尾07:04発→甲府08:38着



電車・バス

新宿⇒甲府駅 都心からだと、最速83分。特急なら乗り換えなし。

- JR中央線 特急「あずさ」又は「かいじ」で最速83分
- 新宿駅南口「バスタ新宿」より最速119分

名古屋⇒甲府駅 名古屋からでも、特急に乘ればおよそ3時間。

- ①JR中央線(塩尻駅経由)／塩尻で特急「しなの」から特急「あずさ」に乗り換え、最短181分
- ②東海道新幹線・JR身延線(静岡駅経由)／静岡で新幹線「ひかり」から特急「ふじかわ」に乗り換え、最短195分
- JR名古屋駅前バスセンターより約240分

甲府駅⇒甲府キャンパス 甲府駅から、信玄公ゆかりの武田神社を目指して歩くこと15分。

- 甲府駅北口2番バス乗り場より「武田神社または積翠寺」行き約5分、「山梨大学」下車
- 甲府駅北口より武田通りを北上、徒歩約15分

車

東京⇒甲府キャンパス

首都高新宿線から高井戸IC経由で中央自動車道:高井戸IC～甲府昭和IC(高井戸＝甲府昭和間約1時間20分、113.2km)で下りて、一般道を北東の方角へ。国道20号線またはアルプス通り経由で約20分

名古屋⇒甲府キャンパス

東名高速:名古屋IC～小牧JCT～中央自動車道:甲府昭和IC(名古屋＝甲府昭和間約3時間、245.4km)で下りて、一般道を北東の方角へ。国道20号線またはアルプス通り経由で約20分

UNIVERSITY OF YAMANASHI - FACULTY OF LIFE AND ENVIRONMENTAL SCIENCES



山梨大学 生命環境学部

TEL.055-220-8803

〒400-8510 山梨県甲府市武田4丁目4-37

<http://www.les.yamanashi.ac.jp/>



スマートフォン用